

第33号
2006.10

男女共生社会推進センター

ふいぶる

～男女共生社会づくり～



CONTENTS

特集 見直そう 男の生き方……1・2

講座レポート……3

フェスタ／相談室から／図書・情報資料室から……4

リレーエッセイ 岩崎順子さん……5

推進課インフォメーション／推進事業者訪問……6

講座案内……7

「国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川」より
図書等をご寄贈いただきました。

- ◎図書58冊
- ◎ビデオ5本
- ◎DVDプレーヤー2台
- ◎テレビデオ1台
- ◎保育用マット
- ◎ノートパソコン1台



特集

見直そう 男の生き方

りいぶる主催講座「男の生き方セミナー」レポート



講師 味沢 道明さん

環境に優しい暮らし方や育児、男性の家庭参加、DVの防止などに関する講演や料理教室を行う。(有)日本家族再生センターを設立し、暴力の被害加害、性別年齢に関わらず、具体的複合援助を行っている。著書に「料理も暮らしもいい・かげん」(かもがわ出版)などがある。

いよいよ間近に迫った2007年。仕事を中心に生きてきた男性は、定年後どのように過ごしていけばいいのでしょうか。これからの生き方、家庭や地域での居場所づくり・仲間探しについて、日本家族再生センターの味沢道明さんを講師にお迎えして、りいぶる主催講座「男の生き方セミナー～定年前から考える人生再設計のススメ～」を開催しました。講座では、味沢さんからお喋りやワークショップを通して今の社会と仕事以外でこれから生きるヒントをいただきました。最初は緊張していた参加者のみなさんも、時間がたつにつれ、わいわいがやがやと楽しみながらの講座となりました。その一部を紹介します。



今までの男性は「男は仕事」「男はこうでなければ」と子どもの頃から教わり、仕事中心に生きてきました。しかし今はその仕事的环境も厳しい時代となり、男性も生き

づらい社会になっています。

他方女性はどうかというフレキシブルに自分の世界をつくっています。退職後家庭に戻ったとき、妻から見れば生活力の低い夫は足手まといに見られがちです。そうならないように男は変わらなければなりません。が、「男」というものに考え方や頭の縛りにとらわれてしまっていてなかなか変わりません。何十年も続けてきた仕事モードを地域モードに変えるのは非常に難しいのです。しかし、退職する前からいろんな人間関係をつくって、二足のわらじを履ければスムーズに変わることができます。仕事以外の人間関係がたくさんあれば、より生活がしやすくなるのです。

地域や趣味で生きていくためには、これまで慣れていた上司や部下、先輩後輩など上下の人間関係ではなくコミュニケーションが必要とされます。男性は状況を説明する「レポートトーク」は得意ですが、これからは感情を伝える「ラポートトーク」が必要になります。「男は黙って…」と感情を表に出さなければ、周りの人は何を考えているのかわからず不安になってしまいます。感情を表す言葉を使い、自分の気持ちを伝え人間関係をつくる会話が必要です。自分のこと、自分の気持ちを伝えることは意外と難しいのです。日頃から語ることで自然に気持ちを語れるようになります。日頃から、自分の気持ちを理解するトレーニングをしていないと、気持ちや感情をうまく伝えられません。お互い気持ちのよい人間関係がつかれること、また、気持ちのキャッチボールができるかが大切なのです。

今は、生涯学習やインターネットを通じて仲間を募集しています。意識を外に向ければいろんな出会いが待っています。いろんな人間関係を創ることが可能です。自分に無理のないよう負担にならない範囲で地域に出て友達をつくってくださいと結ばれました。

料理教室では、鶏の鍋照り焼き、きのこご飯、青菜の煮びたし、みそ汁をつくりました。

慣れない料理でしたが、協力しながら作りあげ、おいしくいただきました。参加者のみなさんからは、「いい機会になった。家でもつくってみたい」、「みなさんとコミュニケーションをとりながら料理ができたのでよかった」などの感想があり、楽しい料理教室となり、生活力アップに向けての第一歩となりました。



ふ る む 海草振興局 「男女共同参画ふれあい料理教室」を開催しました

皆さんこんにちは。海草振興局総務室の大西です。千里の道も一歩から、小さな事からコツコツと、をモットーに、身近な分野から「男女共同参画」を推進していこうということで、去る8月19日、紀美野町総合福祉センターで男性を対象に「男女共同参画ふれあい料理教室」を開催しました。

海南・海草地方は古くから万葉集ゆかりの地として有名ですが、他にも黒江の漆器、熊野古道、生石山の自然等、見どころがいっぱいです。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。



海草振興局総務室

主事 大西 健司



海南・海草地方だけでなく、和歌山市や岩出市からも40名以上の皆さんが参加。管理栄養士の宮本先生の指導を受けながら、ドライカレーやサラダ、デザートを作

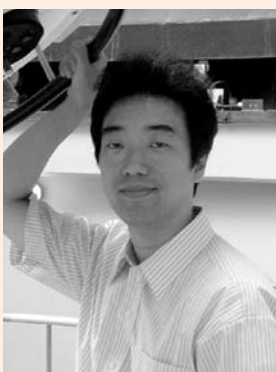
りました。普段使ったことのない包丁に悪戦苦闘する人が多い中、慣れた手つきで材料を刻んでいくお父さんの姿も。料理教室を終えた後のアンケートでは、意外にも男性参加者のうち半分近くの方が家でもよく料理を作っているとのことでした。できあがった料理もプロ顔負け(?)の味で、あちこちで驚きの声が上がっていました。

食後には、地元・紀美野町のミュージシャン、「かずう」さんの即席ミニライブが開幕。「フンコロガシの歌」「けむりだらけ」「モザイク」「うちにおいでよ」「ゆっくり歩けば」の全5曲のオリジナルソングを歌ってく

れました。
参加していただいた皆さん、その他ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



和歌山大学教育学部で男性教員として初めて育休を取得した富田助教授にお話を伺いました。



富田 晃彦氏
(1967年大阪市生まれ)

京都大学理学部卒業、同大学院修了、博士(理学)取得。1997年より和歌山大学教育学部講師、1999年より同助教授。専門は銀河天文学、天文教育。妻も大学助教授。

2004年10月から3ヶ月育児休業。

私も妻も、子どもを積極的に持ちたいとは考えていませんでした。私のまわりの同世代も、研究という仕事の大変さもあり、子どもを持たないという選択をした人が非常に多いんですね。

ところが、突然、子どもが生まれるということになり、これは大変だということになって。休まずに仕事に行くと遅刻なんかも増えるでしょうし、ドタキャンもやってしまいます。仕事の質は落とさなくなかったのが、出産直後のあまりに忙し

い時はしばらく時間を下さいということだったんですよ。そういう意味ではすごく軽い気持ちで育休を取ったわけですよ。

仕事の方は、私がもっていた授業の3分の1くらいは非常勤講師をお願いしました。休業中のフォローをしっかりといただけると、送り出す学生の質に低下はないし、自分の家庭と両立できているということで、組織に対する信頼も出てくるし、それがやる気につながりますよね。管理職の方も長い目で見て欲しいですね。

育児休業は確かに時間的には大変でしたけど、頭脳は死んでいないので、判断を要する事とか出来る仕事は続けさせて欲しい。出来る仕事までは精神的な意味で取り上げて欲しくないと思いましたね。

これから育休を取られる男性の方には、妻の産休中に育休を取ることをおすすめします。これは妻の就業の有無に関係ないんです。例えば出産直後の1ヶ月育休というのはいかがですか。出産直後の大変な時期でも、二人居ると交代できますから外出も出来ます。

いぶる
主催講座

ココロに種まきワークショップを開催しました。 ～ココロほぐしの絵ことばづくり～



平成18年6月29日串本町文化センター、30日に白浜町中央公民館で、イラストレーター・絵ことば作家のたかいたかこさんを講師に迎え、墨あそびを通して自分と向き合い、ココロほぐしをするワークショップを開催しました。

たかいさんが育児ストレスからウツに陥った経験を通してココロが軽くなるような創作活動を行っていることをやさしい口調で紹介したあと、参加者の思い思いの言葉を筆を使って表現しました。

はじめは緊張した雰囲気でしたが、筆を進めていくたびに参加者のみなさんもリラックスでき、わいわいがやがやとした雰囲気の中で半紙に思い思いの言葉を書き進めていました。また、その言葉を発表し参加者のみなさんに心の思いを伝えるとともに、それぞれがその思いを好意をもって感じ、受け入れていました。

いぶる
主催講座

絵本の心子どもの心を開催しました。 ～こどもと大人の絵本の時間～

平成18年7月5日湯浅町中央公民館、6日にみなべ町ふれ愛センターで、童話作家で私設図書室「トモエ文庫」を主宰されている草谷桂子さんを迎え、親子で楽しむ絵本の講座を行いました。

パネルシアターでは、草谷さんや参加者による絵本の読みきかせもあり、子どもたちは夢中になってお話しに聞き入っていました。

講演では、子どもたちに本を読む楽しさや楽しい時間・思い出を作るために始めた「トモエ文庫」の紹介をされました。また、ジェンダーの視点から絵本を楽しむことについて話されました。「絵本は子どもたちに手渡す最初の文化であり、時代を映し出す鏡でもあります。男女の描かれ方も日本と世界では異なり、海外では30年以上も前から家事や絵本を読み聞かせる父親の姿も描かれています。多くの父親が絵本を読み聞かせているのです。子どもは絵本から将来を想像するので、絵本に描かれていることはとても大切なのです。」と話されました。



いぶる
わいわいサロン

私をほどくワークショップを開催しました。 ～五感をひらいて想像力を養うワーク～

平成18年8月22日いぶる研修室で、表現教育家の岩橋由梨さんをゲストスピーカーに迎え、言葉でのコミュニケーションだけでなく五感を使ってコミュニケーションを楽しむワークショップを行いました。

なかでも、2人1組になって行うワークでは、目を閉じた人を背中から片方の手で押して会場内を歩きました。前の人は後ろの人の手が背中に触れる事で歩いたり止まったりします。更には、目を閉じて隣の人の手の感触を覚えました。後ろの人に誘導されて会場内を歩き回り、出会う人と手の感触を確かめ合い、最初の人を探し出すという、五感をフルに解放する体験をし、ワークを通して新しいコミュニケーションを楽しみました。

ワーク後の交流会では、「新しい気づきがたくさんあった。」「コミュニケーションについての捉え方が広がった」「言葉以外でもこんなに親しく人と触れ合えるなんて感動しました」などの意見が交わされ、また参加したいとの声もたくさんいただきました。



りいぶるフェスタ2006

～考えよう!男女共同参画～

開催のお知らせ

県民の皆さんに男女共同参画を身近なものとして考えていただくため、今年もりいぶるフェスタを開催します。多数の方のご来場をお待ちしています。(ふれあい人権フェスタ2006と同時開催)

日時 平成18年11月18日(土)
(午後1時～午後3時)

場所 和歌山ビッグホエールアリーナ
(和歌山市手平2丁目1-1)



山形県出身。1970年日本テレビにアナウンサーとして入社。アナウンス部部長を経て2001年6月より日本テレビエンタープライズ取締役、日本テレビアナウンスカレッジ学長に就任。

◎公開講座「自分らしく生きる1秒の重さ」
講師 石川 牧子さん

- ◎石川牧子さんと木村知事による対談
- ◎男女共同参画いきいき大賞表彰式
- ◎男女共同参画啓発ポスター展(18日・19日)
- ◎女性のチャレンジー坪ショップ(18日・19日)

無料

一時保育(要予約)
手話通訳・要約筆記あり

お問い合わせ先

和歌山県男女共生社会推進センター“りいぶる”

☎073-435-5245

E-MAIL: e0315012@pref.wakayama.lg.jp

“りいぶる”相談室から ～あなたはあなたのままで～

“りいぶる”では、女性が抱える様々な悩みを受け止め、自分らしく生きるためのサポートをしています。先ずはどんなことでもお電話ください。



相談専用電話

073-435-5246

◇総合相談◇

毎週月～土曜日[面接相談]9:00～17:30

[電話相談]9:00～20:30

◇女性のためのカウンセリング◇

毎月第1～3金曜日13:00～17:00[要予約]

◇女性のための法律相談◇

月3回13:00～16:00[要予約]

“りいぶる”図書・情報資料室から

ビデオ入荷しました…ビデオの貸出できます。ビデオブースでもご覧になれます。

☆スタンドアップ☆

監督 ▶ ニキ・カーロ
出演 ▶ シャーリーズ・セロンほか
全米初のセクハラ勝訴を勝ち取った炭坑で働く女性たちを描いた、実話に基づく作品。

☆メゾン・ド・ヒミコ☆

監督 ▶ 犬童一心
出演 ▶ オダギリジョーほか
ゲイのための老人ホームを舞台に繰り広げられる人間模様を描く。

☆イン・ハー・シューズ☆

監督 ▶ カーティス・ハンソン
出演 ▶ キャメロン・ディアスほか
優秀な姉に頼るだけの妹。ある日、姉に愛想をつかされ、妹は自立への道を歩き出す。

☆8人の女たち☆

監督 ▶ フランソワ・オゾン
出演 ▶ カトリーヌ・ドヌーヴほか
ある大邸宅で殺人事件が。8人の女たちがお互いを疑い、秘密が暴露されていく。

☆まぼろし☆

監督 ▶ フランソワ・オゾン
出演 ▶ シャーロット・ランプリングほか
忽然と姿を消した最愛の夫。妻は受け入れられず夫のまぼろしに語りかける…

新着図書紹介…この他にも、たくさん入荷しております。



幸福論

小倉千加子・中村うさぎ／岩波書店
小倉千加子氏と中村うさぎ氏が幸福について、いろんな角度から語り合う対談集。



書いて考える ジェンダー・スタディーズ

小平麻衣子・氷見直子／新水社
解説とワークシートで構成され、学校や職場などでのジェンダー教育テキストに最適。

ほっとする場所、どこですか？ ほっとする人、誰ですか？

岩崎 順子(いわさきじゅんこ)

1960年和歌山県海南市生まれ。1980年より糸幸呉服店。1986年～2001年海南市内にて、こどもふくのティンクルを経営。2004年より和歌山県人権啓発センター登録講師、愛知医科大学看護学部非常勤講師。ガンと出会ったのをきっかけに、いのちと向き合う事ができた日々。夫が他界するまでの体験を綴った「ガンが病気じゃなくなったとき」を2005年、青海社より出版。現在県内外で講演。海南市在住。



夜の風に涼しさを感じるようになり、もうすぐ本格的な秋がやってきそうです。季節の移り変わり、その素晴らしさ、いとおさを今年もこうして感じさせてもらえる事を本当に嬉しく思います。

1986年から2001年まで、海南市内でこどもふく店を経営していました。初めての出産、子育ての経験の中で、戸惑い不安に思う気持ちは多かれ少なかれ、誰にでもあります。私もそうでした。不安だった頃の経験が、きっかけとなり「次の時代を生きていくこどもたちの心が育っていくためには、親の心も満たされている事が大切」だと思い始めました。店に来てくれたときよりも帰るときの方が、少し元気になっていたり、ほっこりできたりするスペース、親と子の関係をお手伝いできるようなスペースになればいいなという願いを込めて、オープンしました。初めて来店してくれたとき、お客さんのおなかの中にいた赤ちゃんがこの世に生まれ、やがて小中学生、高校生へと成長していくのを共に感じさせてもらうことができた15年間でした。

「女性のこころとからだ、ここちよく」「働くシングルマザーが安心してともに語ることのできる場所づくり」を目指して「グレイプフルーツ」を発足された女性が和歌山市内におられます。グレイプフルーツ、爽やかな香りのする果物の名前、なんだかいい響きですね。その方から依頼をいただき、今年の2月に男女共生フォーラムの中のシングルマザー交流会で、お話をさせていただきました。用意してくださった部屋が和室であったこともあり、初めから和んだ空気が漂っていました。シングルという枠にとらわれないということで、集まれた方々は、年齢も色々。シングルの人もそうでない人も。現在、シングルである人の事情も離婚、未婚、死別と様々です。交流会では、誰か一人が一方向的に話すというのではなくて、全員が自然に次々と話が出る雰囲気でした。暮らしの中で困っている事を誰かが話すと、誰かがご自身の経験したことを話し、それを聞いた人は「あっ、そうか。自分だけじゃないんだ。まあ、これでいいんだな」と表情が和む。こどものときに感じた事、仕事上で困っている

事、女性だからこうしなければ、男性だからこうしなければという思い込みが、知らず知らずに自分を縛ってしまっている事、女性らしく、男性らしくより、その人らしくで、いいんじゃないかなという事、そういうことを安心して本音で語り合える場所になっていました。

その中に、小さなこどもさんを連れて参加された方がおられました。同じ部屋の少し離れたところで、スタッフの方が、その子と遊んでくれていました。私は、ここ数年の生活の中で感じた事をざっくばらんにお話させていただきました。その後、全員に目を閉じてもらい、子どもの顔を思い出してもらいました。「もし、何かが起こり、後1分間しか、その子に会うことのできない状況になったら」1分間だけ目を閉じてそのことを思ってもらいました。その場におられた何人かの方が、目を閉じたまま涙をこぼし始めました。すると、それまでは離れた場所で楽しそうに遊んでいたその子が、パタパタと足音をたてて飛んできました。慌てて、お母さんの膝にちょこんと座ったその子は、どうしたの？と言わんばかりに、小さな指でお母さんの顔を触り始めたのです。お母さんの目には、さらに涙が溢れました。覗き込むようにしてお母さんの顔を見ている子を抱きしめていました。お母さんの腕の中で和らいた表情に戻った、その姿を見て胸がジーンと熱くなりました。周りのみんなも、思わず目を細めうなずき合い、それぞれに鼻をすすりました。

こどもも、大人もそうですが、ほっとできる場所、そしてほっとする人が必要ですよ。友達でも、家族でも近所の人でも誰でもいい。その人といると心が安らぐ人がいると嬉しいですね。まずは、自分の心が潤うように、自分自身もほめてあげて、心になつぱりと栄養を与えてあげる。そういう会話が口々に自然に出てくる時間になっていました。その会の終了後、エレベーターで1階まで降りると、ロビーのソファの上で、さっきの子が跳ねて遊んでいました。すぐそばには、その様子を見守るかのように、先程の女性が立っていました。

男女共同参画推進 事業者を 新たに登録しました！

商工組合中央金庫和歌山支店(登録番号男女第13号)

所在地	和歌山市	業 種	金融業
http://www.shokochukin.go.jp/			
○職員本人が出産する場合、年次休暇とは別に、有給休暇として産前産後14週間の「出産休暇」の取得を認めている。 ○育児休業期間中は、代替要員を確保するようにしている。 ○次世代の社会を担う子を養育する職員に対し、雇用環境整備の一環として、「ノー残業デー」や「ノー残業週間」を定めるなど、所定外労働の削減に取り組んでいる。 ○小学校就学前の子を看護するために必要な休暇取得がより容易になるよう、年次休暇とは別に有給休暇として、看護休暇(5日)を設けている。 ○「働き方の見直し」に資する多様な労働条件整備の一環として、年次休暇の取得希望時期を予め確認し年間の取得計画を作成するなど、職場における年次休暇の取得促進に取り組んでいる。 ○男女共同参画、子育て支援に取り組む中小企業を金融面から支援するための「わかやま子育て・女性応援企業ローン」を創設			

株式会社れもんケア(登録番号男女第10号)

所在地	和歌山市	業 種	老人福祉事業等
http://www.lemoncare.com/			
○現場を統括するマネージャーに女性を積極的に登用している。 ○性別にかかわらず公平な評価を行うため、人事考課基準を明記した経営方針書を策定している。 ○乳幼児を育てながら働けるようにするなど女性の就業を容易にするため、在宅勤務やフレックスタイム制を一部取り入れている。 ○セクシュアル・ハラスメントを防止するため、セクハラに関する教育・相談窓口担当職員を置いている。			

株式会社ハウディ(登録番号男女第11号)

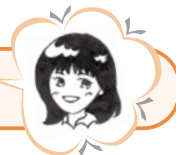
所在地	紀の川市	業 種	児童福祉事業等
http://www.lemoncare.com/			
○管理・監督する立場にある職員に女性を積極的に登用している。 ○性別にかかわらず公平な評価を行うため、人事考課基準を明記した経営方針書を策定している。 ○女性の就業を容易にするため、フレックスタイム制を一部取り入れている。 ○介護休業を取得した職員に対して介護手当を支給している。			

和歌山電鐵株式会社(登録番号男女第12号)

所在地	和歌山市	業 種	交通運輸業
http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/			
○女性の採用拡大に積極的に取り組んでいる。 ○会社の方針として、男女比を5:5にすることを目標としている。 ○これまで、女性の進出が遅い「電車運転士」に、既に1名、正社員として女性を採用。更に現在1名を養成中(身分は嘱託社員)			

男女共同参画 推進事業者訪問

このコーナーでは、県に登録された事業者さんから直接お話を伺い、その取り組みぶりなどを、紹介します。【木村レポート】



人事部
中村 葉子 主任

株式会社紀陽銀行

紀陽銀行では現在男性1251名、女性617名が業務にあたっています。そんななかで、女性管理者として活躍している中村さんにお話を伺いました。

まず女性が勤務する上で欠かさないセクハラに対する取り組み

みについては、本部に相談窓口を設置し、さらに「法令等遵守マニュアル」にセクハラについての項目を設け、チェックリストを作成し、自分を振り返る機会を作っています。またセクハラに対する意識を高める研修も行っています。

女性として長く勤めていくためにもう一つ気になるのが、結婚や出産の際の職場の対応です。昨年は産休や育休取得者が2ケタを超え、今年はそういった休暇取得者が多く復帰しているとのこと。復帰した職員に対しては、半年くらい元の部署での仕事に戻り、休暇前の生活リズムを取り戻すことができるようにしています。これなら急に全く知らない職場に配属にならないので、精神的負担も軽くて済みます。また自宅から通える勤務地に配属することや、男女ともに申請を行えば時間外勤務をしなくてもよいといった制度でサポートしています。

今後は行内の女性に対し、産休や育休を取得しながら働くことを奨め、取得した行員がまた働きたくなるような環境作り、例えば、復帰した職員が様々な仕事を選べるように選択肢を広げたり、一度退職した職員が再度活躍する仕組みを充実させることにも力を入れていきたいと考えています。



小林 俊幸 総務課長
江崎 崇 労務担当

山本産業株式会社

山本産業は地元和歌山でもなじみの深い花王と協力して製品を作っている会社です。仕事内容には商品の箱詰めや包装などがあり、工場では多くの女性が働いています。

今回は山本産業の総務課、小林さんと江崎さんにお話を伺いました。

まず女性の職員を多く採用していることで、会社にはどのようなメリットがあるのか伺うと、工場のライン作業というのは根気がなくては続かない仕事で、女性のねばり強い特性が「製品を効率よく正確に生産できる」という点で活かされているとのことでした。

また女性の活躍の場を広げるため、会社側からも危険物取扱いやクレーンの資格取得を促すようにしています。またラインリーダーという製品に欠陥がないかチェックする仕事には女性が多く就いていますが、そういったリーダークラスの人材には衛生管理者の資格取得も奨めています。女性が5~6割を占める山本産業では、彼女たちの力を最大限に発揮できるように会社全体でバックアップし、ますます女性が活躍できる会社づくりに励んでいます。

"りいぶる"主催講座「ハッピーライフセミナー」

男性も女性もいきいきと主体的に生きるためのライフスタイルと、女性の人生設計や経済的自立のためのライフプラン講座。

開催日時 11/27(月) 13:00～16:00

講座内容・講師 ①あなたらしい家族生活をしていますか
神原文子さん(神戸学院大学教授)
②女性が豊かに生きるためのライフプランニング
植田香代子さん
ファイナンシャルプランナー[CFP®]

開催場所 "りいぶる"研修室

募集人数 30人(申込先着順)



一時保育あり(11/17金締切)

チャレンジ・キャリア・コンサルティング

日 毎月[第1・第3]木曜
時 14:00～16:00

[第1木曜]グループコンサルティング
予約なしで時間内であればいつでもご利用いただけます。

[第3木曜]個別コンサルティング(事前予約制)
面談時間はひとり25分まで。定員4名。下記にて事前予約を承ります。

予約電話 ☎073-435-5245
(チャレンジ担当まで)

※なお第3木曜のうち10月は有田地方・12月は西牟婁地方・2月は伊都地方で実施のため、りいぶるでのコンサルティングはお休みとなります、ご了承下さい。

"りいぶる"企画提案事業 男女共同参画社会をすすめるための企画を応募し、採択された団体が実施します。

「明日の私ココロ豊かにすくすくために!」(4回連続講座)「社会参加」「男女のあり方」をキーポイントにした、生きがいづくりのための講座

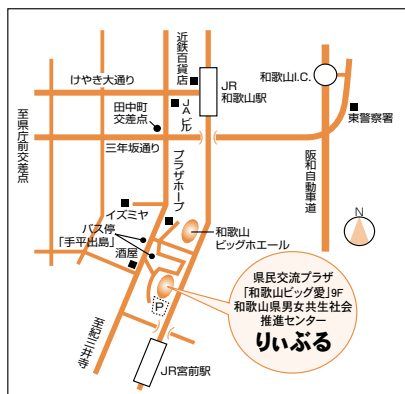
開催日時	講座内容	講師	開催場所	募集人数
①10/28(土)13:00～16:00 ②11/11(土)13:00～16:00 ③11/25(土)13:00～16:00 ④12/ 9(土)13:00～16:00	①人生、笑いがなくっちゃね ②「働くこと」が生きがい! ③「趣味」が生きがい! ④あなたは地域にとけこんでいますか?	和歌山県健康 生きがいづくり アドバイザー 協議会会員	"りいぶる" 技術講習室	30人 (申込先着順)

●申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号を和歌山県健康生きがいづくりアドバイザー協議会まで。
[できるだけFAXでお申し込みください。] ●FAX 073-433-1754 ●TEL 073-431-9463

「女性に対する人権侵害～現代の状況に見えるジェンダーの問題～」

開催日時	講座内容	講師	開催場所	募集人数
12/2(土) 13:30～15:30	これまでの歴史及び現在の状況をふまえ、どのように生き、将来に何を伝えていけばよいのかを「ジェンダー」をキーワードに考える講演会。	源 淳子さん (女性問題研究者)	"りいぶる" 研修室	80人 (申込先着順)

●申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号を部落解放同盟和歌山県連合会までお知らせください。
●TEL 073-473-2301 ●FAX 073-473-2302 ●Eメール yamamoto-k@humannet-wakayama.jp



企画・発行

和歌山県男女共生社会推進センター



〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛9F
TEL(073)435-5245・FAX(073)435-5247
URL <http://wave.pref.wakayama.lg.jp/danjyo/>

開館時間 午前9時～午後8時30分

休館日 毎週日曜日・国民の休日(祝日)、年末年始(12月29日～1月3日)